

TOKYO GAS

## 天然ガス 地球上に、環境に、やさしい エネルギー。

化石燃料の中で燃焼時のCO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>の発生量が最も少なく、

SO<sub>x</sub>を発生しない天然ガス。

東京ガスは、天然ガスを用いた

ガス冷暖房やコーチェネレーションシステムの普及を通じて、

快適な都市環境づくりにとりくんでいます。

天然ガスは、都市を"やさしさ"でつつみます。

■お問い合わせは  
東京ガス株式会社 北部都市エネルギー部  
東京都豊島区東池袋1-46-5  
TEL.03-3984-1154

# PERSPECTIVE

日本アーキテクチャーレンダラーズ協会

2000 vol.23

特集・座談会／私とパース この20年、そしてこれから

びゅーず おん パース ②／門脇信夫

アトリ工訪問／(株)日建設計東京事務所 山田雅明

JARA大賞 審査結果発表



作画者 押谷陽子 (JARA大賞・金賞)



亀崎——元々そう言う仕事じゃないよね!作家性の強い仕事だし、自分の作品を出してなんぼの世界だからね。人を沢山入れても全然違う作品が出るのも困るしね。

山田——スタッフを多勢抱えている時でも事務所として統一した作風なんかは、やっぱりあったんでしょうか?

Chinen



亀崎——うん、一応あるにはあったんだけど、中には妥協して出す場合もあったよね当時は作品集が少なくて、参考資料も少なかったよな。今はいくらもあるけれど、作風を自分で磨き上げるのに苦労したな~

内海——20数年まえかな~、グラフィック社から出したじゃないですか、パース集。

山田——ドーム社のハードカバーのかな?私はあの本の事は鮮烈に残っていますよ。

内海——あの頃の絵は、今の絵と随分と違いますよね、ガッシュでもないし、水彩でもないというよな。

山田——エアーブラシは未だ全盛じゃなかったよね。透明、不透明の併用の絵が多くなったよね。他に僕が見たパース集、今でも僕のバイブルなんだけど、27cm角位のグレイの布表紙のドローイング・バイ・アメリカンアーキテクト、これは印刷としてはモノクロなんだけど、中味はペン、鉛筆、コンテ、クレヨン、フリーハンド風の絵もあり、緻密なものもあり、ペン&エアーブラシのモトーン、もしくは原画は恐らくカラー作品だと思われる絵が一杯載っている本、これは非常に参考になっています。今は我々の協会の影響もあって様々な作品集が手に入るので、今の若い人達は幸せですよね。



亀崎——この間の仕事なんだけどね、私は鼻が弱くて、最近はエアーブラシは殆ど使ってないですね。設計事務所の古手の人に随分と懐かしいパースですね、と言われてしまいましたよ。勿論右横には何かのフィニッシュの時に2本エアーペース置いてあります。

内海——ブラシと言えば、昔は白のボードはあまり使わなかったじゃないですか?グレー やベージュのキャンソンボードが多く空は描かずに、雲だけ描いていたような記憶があります。空を描き出してから、エアーブラシが流行ってきた様な気がするんですけど。

知念——そうねエ~、あの頃から僕なんかは結構、不自由な感じがしてきたね、自分ではこの絵はグレーの空が良いと思っても発注者から青い空にして欲しいと言われたり、空は塗りたくないのに途中ですか?と言われたりね。

内海——レンダラーと呼ばれる様になったのは、丁度その頃位からですかね?

村松——世の中の流れですかねエ~

知念——思えば、あの頃位から個性みたいな物が無くなった様な気がする。パースが設計図書の一部って言われているけど、独立した絵になつたら良いと思っていますよ

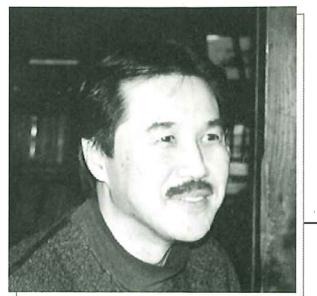
山田——勿論、パースというのは、設計図書の一部ですよ。しかしそれは一面的な見方であって、我々描き手としては絵一枚の中に全てを込める気持ちで、描いていますよね。それと逆に設計者から今回はパース然としてなくて良いから、スッ飛ばしの絵にしてくれだとか、この部分だけディテールを強調してくれだとか、プロジェクトの段階によつて発注の仕方が違うじゃないですか、発注者の方も最近は随分と柔軟になってきてる様にも思えますよね。

コンペティション、プロポーザル、計画案、実施設計、と当然の事ながら表現のボリュームも変わるしね。

知念——発注者も僕等も明確な意志があって、ぶつかり合う中から良い物が出来ていくと非常に楽しいですよね。逆に時間も無くて、この部分はお任せみたいになって、後から文句言われる時は変だと思う。時には自分の実力不足かな?とも思うけどね。

亀崎——発注者が僕等にお任せと言うのはやはりおかしいと思う、きちんと主張して欲しいと思う。それをどう表現するかが我々の仕事。私の所は、はっきりと2つに別れて

いる様な気がする。お任せの所は、ずっとそうだし、そうじゃない所も同じ。



Utsumi

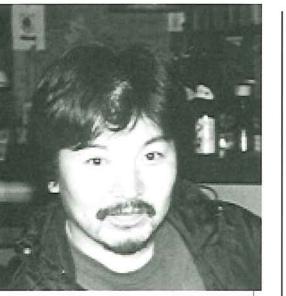
内海——レンダラーは受けた物を最大限にビジュアル化して表現していくと言うのが本来の姿だと思いますが、レンダラーなのか、それともデザイナーとして、アイデアを含めた上で絵を描いているのか、と言う立場をハッキリさせると、発注者も出し方を考えて来ますよね。でも僕は脚本があつて演出家のようなスタンスでいます。

山田——長い事、仕事をやつていると、図面を見ればそのプロジェクトのグレード、建築の良し悪し、正しい設計かどうか、解りますよね。設計者が言いたいのは、この部分のここら辺りなのかと、時には膝を交えて口頭でこうこう、こう言う感じにしたいんだけど、と交互に描き合つたりしてね。図面といふのも一つの言葉だものね。だけどそれだけでは全ては表現しきれませんよね。



気持ちとしては全てを表現したいと常々思つて居るんですが、バリバリに描いてあっても、時として要点を掴んでいかなかったり、か黙な表現でも時として適確に得てたりとか、僕はその図面で表現出来ない部分を描くのが僕等の仕事だと思っています。その場の臨場感と言うか、空気みたいな物、これがやっかいいでいつも苦労しますが、旨くいった時は本当に嬉しいです。プロポーザルなんかの時なんかで図面を出さない場合が時としてありますよ。簡単なスケッチ程度しか提出できないと言う、そんな時はデザイナーとしての立場で提案を求められま

Muramatsu



すよね、これはもうパースでしか表現出来ないですね。

内海——学生にも良く言いますよ。デザイナーになるならスケッチ位は描けないとねって。

亀崎——スケッチは大事ですよ。

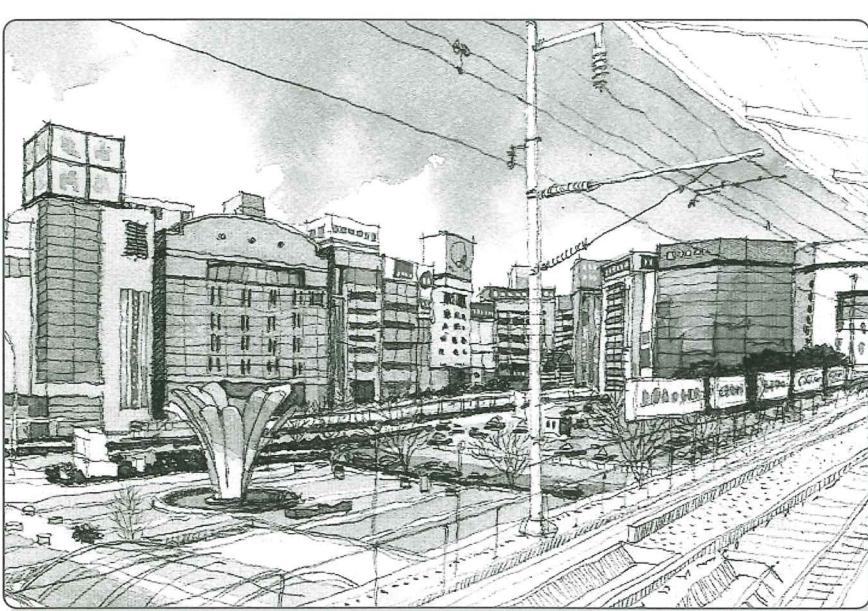
知念——若い子でスケッチ描けない子、本当に多いよね。

山田——現在の学校のカリキュラムの影響有りますよ。小学校位までは別として、中学、高校以上になると、美術の授業自体がどんどん減ってきてている。絵を描くと言う事が無くなっていますからね。

内海——レンダラーになるには色々な要素が必要ですね。

知念——僕は元々、インテリアから入つたんだけど、パースは学生時代から描いててこんな世界もあるんだな~と、パースを描きながらもデザインが頭から離れない。作品はいつもライフスタイルの反映だと思っていますので、良い絵を描くには良い生活をしていないと描けない。

山田——確かに良い生活をしている時を含めて、精神的に余裕がある時は気持ちの良い絵が描けるよね。



亀崎——作家性の強い仕事をやつしている訳だから良い環境、良い生活は必要だよ。経済的な意味じゃなくてね。

知念——僕はずっと一人で仕事をやって来ているんですけど、最低限の生活が出来れば良い。それ以上の物は求めてないんですよ。バブルの頃でも仕事を制限しました。

村松——でも、それがなかなか出来ない人も多いんじゃないですか?

作家的にやつていると。

内海——人間的に技術的にも出来上がつた人の言葉だよね。やり始めの頃は凄くハングリーだったような気がする。腕を磨き技術の向上を目指し、我武者らにやつてきた。そうすればお金は後から付いてくると僕は今もそういう精神でやつているんですけど、この御時世ではねエ~?

山田——最初に描いた絵、皆さん覚えてます?

村松——覚えてますよ!捨てられました。

山田——えエ~!それは気の毒だね。(笑)

亀崎——キツイねえ、僕も経験あるよ!スタッフが持つていってすぐ戻ってきたよ、ダメでしたって。

山田——それもひどいな~。(笑)それで村松さんはそれからどうだったの?

村松——一通り見て何も言わず、床の上にポイッて(笑)

夜の8時頃持つて行って、明朝迄に描き直してこい!って。

山田——何で描いたの?マーカーか色鉛筆のクイックパース?

村松——違いますよ、クイックじゃなく水彩

のきちんとしたパースですよ。次の朝持つて行って、努力だけは認めてやると言われました。(笑)

山田——内海さんはどう?

内海——僕がやり始めの頃は、レンダラーという意識はありませんでした。インテリアデザインの仕事が主でしたし、仕事の中で一つのポストにしか過ぎないから強く印象には残っていないですね。でもインテリアの世界は凄いですよ、スケジュールがタイトですわ。如何に早く見えるように、早く描くかに集中しましたね。お陰で描く手が早くになりました。

山田——若い頃は無我夢中だったよね、とにかく上手く成りました。色々なテクニックも試したりして、ある時期までは必死にやつた方が良いと思いますよね。年を重ねるに連れて違つた側面もみえる様に成つてくつたはね。僕のクラスにも毎年2、3人はレンダラーに成つたって学生は居ますよ。

内海——全国合わせたら結構いますよ。



Yamada

山田——この間、或る所で今こんな経済状態で建築の世界、レンダラーの世界でも、中々若い人が入つて来るのは魅力が無いから、なんて話があったんだけど、僕は違うと思います。以前に比べればの話で、若い人も着実に育つてきています。確かにこれからは建築自体は減少傾向にあると思います。それは環境問題然りスクラップ&ビルの繰り返しはもう許されない課題だし、各プロジェクトはじっくり練り上げられる必要があります。

住宅に関して言えば施主にとっては一生に一度の大切な事ですし、公共の建物なんかも社会資産の長期活用、市民参加の重要性も増してきています。建築というのは基本的に一点主義ですから、大切に創られなければならない。

レンダラーがこれからも確固たる理念を持って真剣に立ち向かえば、更に魅力ある世界になっていくと思います。

スケッチ 山田久仁夫

# ひゅーず おん パース。②

views on perspective

## 歌川広重の東海道五十三次に学ぶ

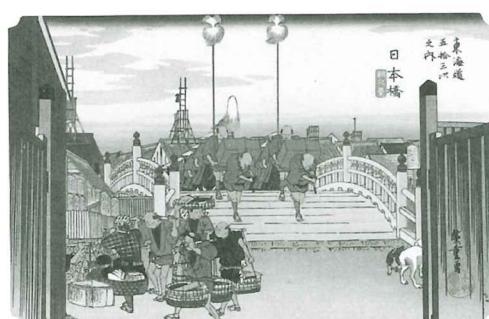
図法をもとに次代の建築物を描き出すというのが我々の仕事である。そんな、クローズされた条件のなか唯一描き手の個性や遊びが許されるのが添景…すなわち周辺の景観の表現ではないだろうか。今、はやりのCGによる写真との合成で現実の姿を作り上げるというのが分りやすい表現ではあるが将来の景観を楽しく面白く誇張して表現するのが合成作家ではない、我々完成予想または未来予想を描くレンダラーの仕事ではないかと思っている。

江戸末期、情感や季節の表現を風景画にとりこんで描画した歌川広重の東海道五十三次の浮世絵の表現を現代の透視図の参考にならないかと取り組んでいるのが、今、インターネットのホームページに発表している作業である。

JARA協会員の海法一夫、宮崎岳彦、協会をやめてしまった大平善生、大和祐美子そして私の五人で始めたこの活動の最大の目的は五人の感受性の相違による広重の絵に対する印象である。

まだ顕著な結果は出ていないが、これから徐々に、ひとりでは出ない答えがでることを期待している。

各宿場の特徴を描きあげ何を強調したいかのデフォルメ、遠近のぼかし、形の表現、省略など我々の仕事に取り入れるべきヒントが数多くある。



お江戸日本橋七つ立ち(午前4時)

わずかな朝焼けの気配、橋の向こうから手前に参勤交代の大名行列が描かれている。先頭は先箱持ち2名次に白熊槍持ちが同じく2名、その後ろ中央に白鳥槍持ち1名、後に続く打裂羽織り(ぶっさきばおり)の徒士の列が黙々と歩む。朝早い出發である。



この広重の行書版「曙 旅立ちの圖」ではスケール感は実に正確に描かれている。

家康が東海道を東の江戸から西の京都までに五十三の宿場を制定して来年2001年で記念すべき400年となる。

当時、江戸へ訪れる人々の故郷への土産物として一枚ものまたは日本橋と京都を入れた五十五枚のセットとなった冊子が人気を博したのはやはり、広重のちからたまものではないか。

広重が現地でその風景をどのように感じ表現したのかを、現代の我々が広重と同じ角度で再現してみよう、当時の景観をCGで制作し検証している。たとえば五十三次の中で数多く出てくる富士山が各宿場から実際はどのように見えたのか、彼はどのくらいのデフォルメをしたのかをみてみると非常に興味深いものがある。

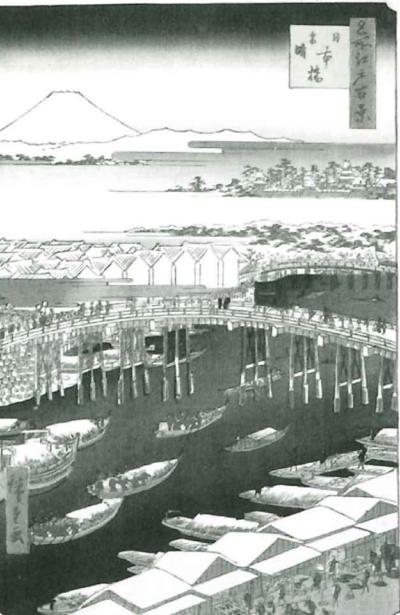
インターネットのホームページからの抜粋だが画像とともに見ていただきたい。

橋の北詰の東(絵では橋の向こう右側)には日本橋魚河岸があり、日本橋川を船で運ばれた魚が陸揚げされ、そこで仕入れた魚(鰯と鰯か)を頭の上の盤台で運ぶ者、天秤棒の先に荷を吊り運ぶ棒手振(ぼてぶり)などが描かれている。野菜を売り歩く棒手振も見える。左の橋詰めには高札場があり幕府から江戸庶民へ下す、掟、伝達などが書かれた高札がある。画面手前は大木戸が大きく開かれている。

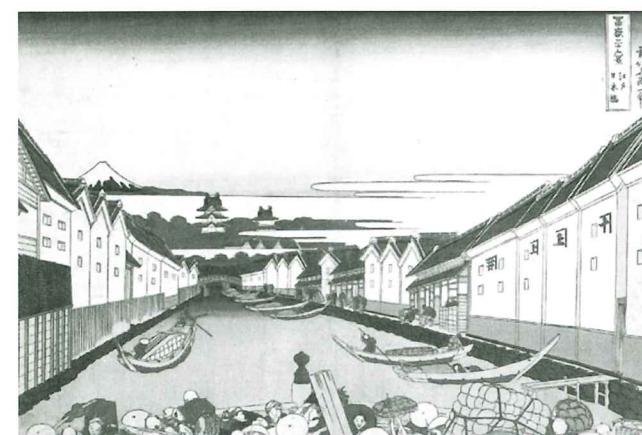
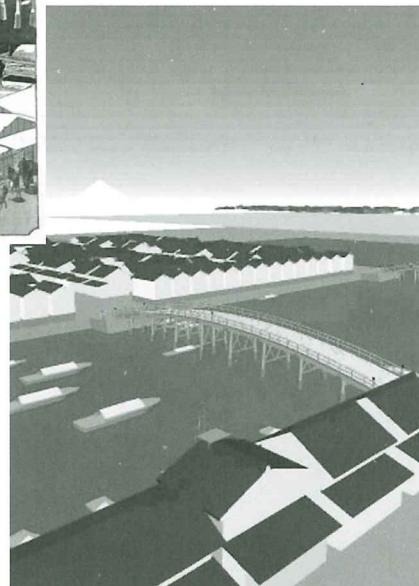
広重は、完全な遠近法ではなく、一つひとつの対象を描写した紙を切り絵のように、重ねていき、各パーツを訴求度を考えながら配置していくようだ。まるで、Photoshopのレイヤーで処理するように。

長さ37間(67.34m)幅4間(7.28m)と記録されている此の日本橋のスケール感は、欄干の高さ1mとしても槍持ちの2名の大きさからみて少し幅が小さめで、奥行きは望遠レンズで覗いた様に詰った感じがする。CGで制作した画像と見比べてほしい。

我々は人物の大きさで建物のスケール感を、表現したりするが広重の意図はなんだったのか…軽妙なタッチの人物の描写を自信をもって表現すべく大きいため、橋の両端を大木戸の中に納めたかった…ならば、右の大木戸はもう少し右に寄せて小さくしてもよさそうだが、いかがなものか。

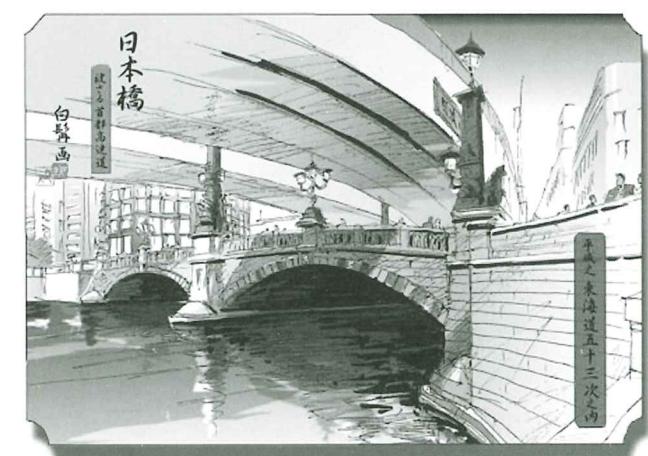


これは広重62才、永眠の年、安政5年に完結した「名所江戸百景」の第1景の「日本橋 雪晴れ」の絵である。広重、得意の雪景色が描かれている。船が行交う日本橋川を描き、手前北岸から江戸城、遠く大山、そして靈峰富士を眺める図である。右の奥に見える橋は一石橋で当時、橋の両岸に住んでいた、後藤庄之助、後藤縫之助の両人にかけて五斗と五斗を足して一石(いっこ)と呼んだそうだ。絵の右下には日本橋と左川下の江戸橋との間にあった魚河岸を人の動きの変化を描き別け活気のある脈やかさを表現している。船の往来の規制があったのか、描かれている船のほとんどが川上へむかっている。現在と同じ右側通行のように、見えるのが識者の方の意見を伺いたい。



葛飾北斎 富嶽三十六景 日本橋  
司馬江漢(1738~1818)や歌川豈治(1735~1814)がオランダ銅板画からの影響で取入れた遠近法の流れはどのように広重の世代に伝わったのか興味深い。

広重は左の消点はすべて水平の平行線で処理して、右への消点はかなり遠い位置にある。あきらかに望遠の設定ではないか。



ホームページでは現在、やっと保土ヶ谷までアップロードしている。現代の東海道の各宿場を訪れ、それぞれが自分のスタイルでスケッチをしているのであわせて御笑覧いただきたい。

ホームページのURLは <http://www.com-art.com> である。

## 門脇信夫

# アトリエ訪問

株式会社日建設計 東京本社プレゼンテーション室

山田 雅明



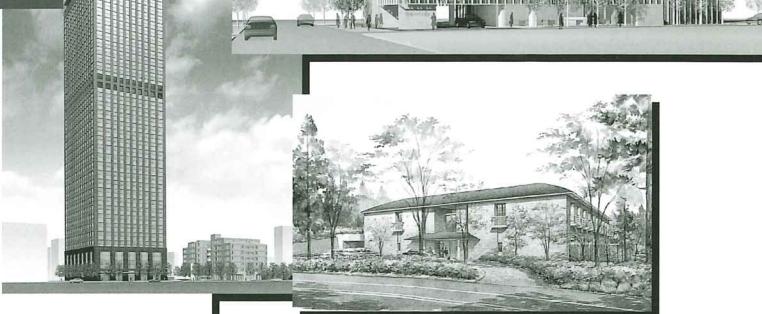
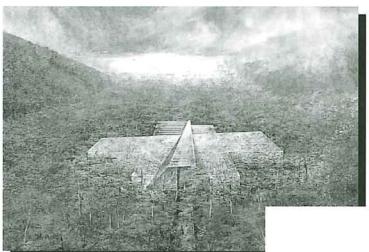
今回は、私の勤務する株式会社日建設計 東京本社 プrezentation室を紹介いたします。

プレゼンテーション室は1994年にコンペ・プロポーザルの増加にともない組織された日建設計の中でも比較的新しい部署です。

現在の構成は、

手描きパース6名・パース専用3次元CAD入力1名・CG/DTP関係6名そして編集が1名の計14名でコンペ・プロポーザルを中心に忙しい毎日を送っております。

では、この場をかりて、最近の私共の作品をいくつか紹介したいと思います。



最近、引越ししました…。

といつてもたかだか徒歩5分の所へ引越ししただけなのです。けれども、それはそれは大変なことありました。

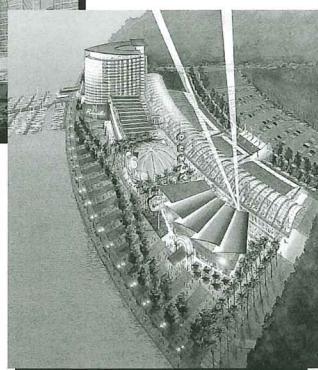
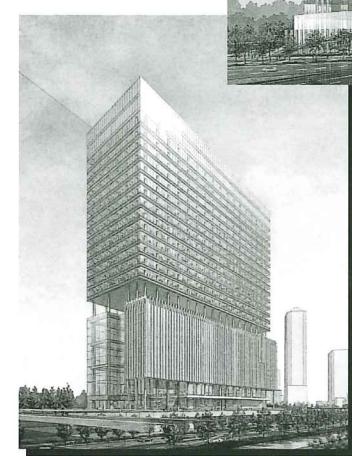
新しいビルは、やはり日建設計で設計されたものなのですが、このビルちょっとした特徴があります。

それは、なんと長さが140mもあることです！

陸上の100m競争もなんなくできる距離です。

夜になると疲れがでてくるのでしょうか、入口に立って向こう岸を見るとちょっととかすんで見えたりもします…。

館内を移動するのにゴルフ用のカートなどあると大変便利だという声があつたりしますが、予算的に無理なのでK2のキックボードあたりに落ち着くかもしれません。



パースペクティブ・イン・シネマ⑩

PERSPECTIVE in CINEMA ⑩

高倉健の存在感の大きさを改めて思う。

光藤 俊夫

昨年の作品で「日本アカデミー賞」を総なめにしたと言える『鉄道員(ボッポヤ)』(降旗康男監督)は浅田次郎の短編で、単行本になった時に読んでいたのだが、映画になると聞いて、あの場面は一体どんな風に表現されるのだろうかと気になっていた。

「あの場面」というのは死んだ娘の雪子が三夜にわたり、その成長の過程をたどりながらいわば幻覚となって登場してくるシーンだ。

主人公の佐藤乙松(高倉健)は、ほどなく廃線となる北海道の幌舞線の終点幌舞駅の定年まじかの駅長だが、とにかく駅長仕事一筋、歳四十三(女房が三十八／大竹しのぶ)にもなってやっと授かったはじめての女の子、「初雪の降った十一月十日の生まれだから」雪子(ユッコ)とつけたその子をたった「ふたつき」で失くしたそのときも駅から離れず列車の送り迎えにホームに立ちん坊だったくらいの堅物なのだが、その恋女房がみまたった時もまたそうで、その死に目にもあわず、ホームで旗を振り続けていた男だ。

「あの場面」は原作ではこうなっている。

「ホームの灯が消された。雪明かりが待合室をほんやりと染めた。『あれえ、忘れもんなんだ』壁回りのベンチに、セルロイドの人形が手を拡げて座っていた。『やあ、ついさっきまで遊んでたっけが、そういういつの間に帰っちまつたんだべ』」

乙松は夕方、真赤なランドセルによって、駅長さん見てけらっしゃ、って、自分の周りにへばりついて離れなかった、ここいらでみたこともない、なまらめんこい子がいたことを思い出していた。そしてその夜のこと、そう、「乙松が出札口に人の気配を感じて目覚めたのは、正確な柱時計が午前零時を打ったときだった。『駅長さん、駅長さん』アクリル板のすきまを覗きこむように、やさしい声が乙松を呼んだ。(中略)カーテンを開けると、赤いマフラーを巻いた女の子が、出札口に肘を乗せていた。『やあ、忘れ物を取りに来なったのかい』(中略)『あんた、姉さんかい』セルロイドの人形を手渡すと、少女はにっこりと笑った。『お人形さんがないって、泣くから』

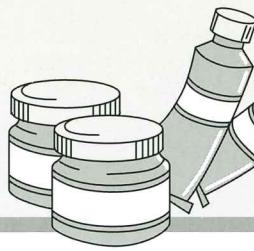
そんな会話があって、乙松は「なんだか夕べの妹も、この姉も、死んだユッコのような気がしてならなかつた」。そしてその子がひとりで帰つて行ったあとに、「『あれえ、何してんだろうね、また忘れてちつまつた』セルロイドの人形がベンチの上におかれただまになつてた」。そして次の日、そのまた姉さん

が(広末涼子)やって来た時、彼女たちがユッコのそれぞれの年代での亡靈であったことがわかる。また「座敷にちんまりと座った赤い綿入れ半纏の(彼女の)後姿が、一瞬死んだ女房の背中」にもみえたりしたのだ。乙松が言う。「…おめえ、なして(かくしてたの)」ユッコが答えて言う「『おっかながるといけないって、思ったから。ごめんなさい』」そして次の章は、もう乙松が死に、その棺桶がキハ12によって運ばれて行く情景に一挙につながり、幕となる。つまりは、死んだ女房と娘がお迎えにきていたのだ。

映画はそんな幻想場面をSFXだ、CGだのと近頃はやりの手法などによらず、原作そのままに淡淡と描いていて気持ちがいい。批評群の中には「たんに時代錯誤的なノスタルジー」などとしたものもあったが、私はだからこそたわけた小細工のない、久しぶりにほっと安心出来るいい作品だと思った。それにも高倉健って、ただそこにいるだけで、なんと存在感の大きい役者さんだなあー、とつくづく思えた映画でもあった。



『鉄道員(ボッポヤ)』の高倉健



# 絵具と容器

—前編—

ホルベイン工業株式会社 技術部 植本 誠一郎

## 1. 絵具容器の必要性

絵具の保管・使用には必ず容器が要る。染料や顔料粉末は当然のことながら飛散の可能性が高く収納容器がないと始末におえない。液体の絵具も同様に流出の危険性により容器が必要。練り上げたペースト状絵具は飛散や流出の現象はないが、裸では変質の危険性があり、しっかりと容器に入ないと使用できなくなる。唯一、容器がなくとも保管や使用が可能なのは固形の絵具だ。固形であるから流動性ではなく、また乾燥したものが多いためそのままでも変質はしにくい。敢えて云えば商品として販売する際の価値、使用する際の他を汚さない配慮程度で容器が必要になるだろう。

絵具が容器に入っている事で我々は大変に作業性の面で助かっている。

- ①飛散・流出しない → 周囲を汚さない
- ②変質や乾燥しない → いつでも使用可能
- ③適量取り出せる  
→ 無駄を省くことができる
- ④移動可能 → 運搬できる
- ⑤付加価値を高められる  
→ 商品のデザインが可能
- 購買意欲の向上
- 使用上の注意表示ができる
- 社会的責任の遂行

## 2. 絵具容器の種類と材質

容器の種類は今日数多くのものが出回っている。

- ◎チューブ
- チューブの変遷と特徴

絵具と云えばチューブ、ことほど左様にこの容器は絵具との関係が深い。絵具殊に油絵具は皮袋に入れて保存したもののが、19世紀半ばにはガラス製の注射型の容器になり、その後開発された折畳み式チューブにネジ込み蓋、さらに現在のキャップになった今日に至っている。

現在のチューブはその姿を現した100年前の姿を留めていて、開発された時点で完璧なデザインであったことがよくわかるもののひとつである。

- ①柔らかいので押せば中身が出る、それも必要な量を出すことが出来る。
- ②金属性のものは復元性がなく、使用後チューブ内部に空気など入らず内容物に影響がない。
- ③機械による大量生産が可能で安価である。

などの理由から広く使用されている。しかし、欠点もある。

- ①充填物との相性を考慮しないとチューブが腐食する。理由は充填物である顔料や展色材とチューブ金属が反応してチューブに穴があいてしまう。
- ②中身が漏れことがある。  
チューブへの充填は一部のものを除いてその殆どは後部の開口部より行ない、後に折り上げて封印する。折り上げ部分には通常、液漏

れ防止剤が塗布されているがこの効力が發揮されないと中身が漏れてチューブ及び周囲を汚すことになる。

③チューブは薄い材質で構成されているために、尖ったものなどが直接あたると穴が開きやすい。穴があかずとも変形して商品価値を下げることがある。

### ●絵具とチューブ

絵具には多くの種類がある。当然使用される容器としてのチューブも絵具の特性に合ったものでなければならない。

#### 〈油絵具〉

現在、アルミニウム製。国外品の一部にプラスチック製がある。

以前は鉛製あるいは鉛+錫製、純錫製などがあったが、環境問題などから姿を消した。アルミ製は軽量で良いが、鉛や錫に比して硬く絵具の完全な絞り出しには力がいる。

また、内容物との反応性もあり内部コートの必要性は高く、折り部の液漏れ防止処置の難しい材質でもある。

絵具使用後は口部の汚れを落としてキャップをしないと後日絵具が乾燥固化してキャップが開かなくなる。

#### 〈水彩絵具〉

現在、アルミニウム製とプラスチック製。プラスチック製にはプラスチック+アルミ箔の積層構造のラミネートと、プラスチックそのものがある。

プラスチックそのものは殆ど学童用の絵具に限定される。

プラスチック製は中身の変質は少ないが復元性が強く使用しにくい面がある。

アルミ製のものは内容物が水性のものであるために油絵具以上に内部コートの処置を必要とする。処置が悪いとチューブ金属が腐食し穴があいて中の水分が揮散し、絵具は固化してしまう。水彩とりわけガッシュに多い現象と云える。

#### 〈アクリル絵具〉

現在、プラスチック製で殆どラミネート製のもの。

アクリル絵具の展色材はアクリルエマルション(アクリル乳化液)でアルカリ性。よってアルミニウム製のチューブなどは内部コートが大切。そのためにコスト高となり安定性の良いラミネート製になっている。

#### ○壇(瓶)

##### ●壇の特徴

壇が絵具の容器にいつなったのかは知らない。おそらくは古代に遡ることがだろう。壇とは、「陶、ガラス、金属などで製し、主に液体を入れる器」と広辞苑にある。その壇の特徴としては、

①内容物と容器の反応がないのでキャップさえしっかりしていれば中身の変質はない。

②透明な場合は残量および内容物状態が一目瞭然。

③不透明壇の場合は、内容物の光による影響を阻止できる。

④繰り返し使用可能。  
などだろう。欠点は

後編(缶とポリ容器)は次号につづく

## JARA大賞 諸候者なし

**金賞** (西宮市) 押谷 陽子  
**銀賞** (奈良市) 崎山 昌彦  
**銅賞** (名古屋市) 小柳 朝一

BOX WINDOW  
夢想窓  
間戸 歴史の窓

### 佳作

1 (大阪市) 刈谷 幸  
2 (大阪市) 見杉 宗則  
3 (埼玉県北足立郡) 生川 清孝  
4 (戸田市) 松井 真吾  
5 (名古屋市) 秋田 恵笑

ホームスイートホーム  
朝に陽の入る窓  
ガラス  
無題  
青の世界

### 入選

1 (千葉市) 塚本 誠  
2 (松本市) 北澤 信  
3 (名古屋市) 永井 智美  
4 (神戸市) 濱田 久美子  
5 (浜松市) 青城 伸太郎  
6 (横浜市) 神引 康裕  
7 (新座市) 其田 忠利

白い窓  
something idea  
草原  
緑風の家  
A-計画  
無題  
連続する外部空間

## JARA大賞審査結果発表

### JARA公募展審査講評

創立20周年を迎えたJARAの今年の「ベース展」において、それを記念に一般からの作品を「窓」というモチーフで公募したところ58点の参加があった。

期待していたほどの数ではなかったのは残念だったが、それだけに真摯な技量でのものばかりであったのは嬉しかった。そして課題とした「窓」を色々な角度から解釈してのユニークさがすべての作品に漲っていて、新鮮だった。

それにしても、たまたま1大賞に値するものなかったのは遺憾だったが、金、銀、銅賞として選ばれた三作の中の一番は——とする事がかなわなかったせいで、以て了とされたい。

以上三点ならびに入選された皆さんの今後の活躍に、あらためての声援と大いなる期待をかけたい。(審査委員長/JARA会長 光藤俊夫)

## JARA NOW

### ●関東支部

昨年、支部長になりました、20周年何かをしなければと思いつつ、日々忙しさのあまり、あつという間に何もないうちに20周年を迎えてまいりました。

特に不動産のベース展においては、手描きを要求されることが多い、又タッチでは水彩がうけています。

自分自身、この会に席を置いて早10数年過ぎてしま

いました。振り返って考えてみると、いろいろなものが、

この会には残ったと思います。

一番と言いついものは、同業社ではあるが夜中迄、語り合ったり、時には討論の最中喧嘩したりしてきた、会の仲間がいっぱいできた事、自分の人生最高の財産であろう。

今後もこの仲間と共に楽しい会にして行きたいです。

関東支部長 奥村一也

### ●関西支部

『あ～これからどうなるの?』とそんな会話をよく耳にします。デジタル化が進むに連れて、何ごとに於いても大きく変わりつつあります。レンダラーも少し前までは、筆かブラシ? 今はアナログ? それともデジタル? と言うように会話の内容も違ってきました。

協会自体も変化していることは、言うまでもありません。レンダラーズ協会の皆さんは、殆どがこだわり派、将来に向けて体制改革のことについて、話し合っていますが、アナログとデジタルが渾然一体となった今、進化するか見直すかは、20周年記念事業をスタートしたこの1年で、大きく展望出来るよう思います。

『昔は良かった』と言う言葉も口にしますが、良いも悪いも、結果として物事をプラス思考で考えている。しかしその過程も楽しく受け止めたううで、協会は今が楽しいです。

私は協会をこうイメージします。大きな母体の中にそれぞれ自由な形の核をもったものが存在し、そしてその母体は、グライダーのように、風の向くまま、ふんわりと風があるかぎり、いつまでも飛んでいるように。

中部支部も時代に合った協会作りと、完成形を目指しています。皆さんと話し合う場があります。試行錯誤の繰り返し、これまた楽しい。

中部支部長 内海 隆弘

## KAPA NEWS

### 第11回 KAPA展のお知らせ

会期 — 2000年8月23日(水)~29日(火)

会場 — ソウル特別市インサドン・キヨンイン ギャラリー

オープニングセレモニー・パーティについては未定と成っていますが例年、初日に行われていますので8月23日~24日のスケジュールでKAPA展訪問ツアーを募集したいと思います。

今、東大門通りにトレンド的なブティック等のショッピング・モールが大繁盛です。びっくりするような安いプライスで買い物ができます。

ショッピングも兼ねて一度ソウルへ行ってみませんか。

### 〈旅行費概算〉

フライト — 8/23出発 アシアナ航空 32,000円

大韓航空 41,000円

日本航空 40,000円

「いざれも名古屋出発のYクラス格安航空券の参考価格です。出発地、帰国日、航空会社の予約状況により異なります」

ホテル — コリアナ ホテル

一泊 約¥12,000円 朝食付(税別)

フライト・ホテルの予約は夏休み期間の関係で混雑が予想されますので、お早めにメール又はFAXにてご連絡下さい。

### 〈お問い合わせ・お申込みは〉

JARA国際交流委員 長谷川和男まで

## ASAP NEWS

### 今年のAIP15のコンベンションはカンザスシティにて10月12日から15日の予定で開かれる事になりました。

今回は日本から5人入選されていますし、一度ASAPのコンベンションを経験してみませんか?

ジャズの好きな方はご存じでしょうが、カンザスシティはチャーリー・パークー出生の地であります。

街のどこからでもジャズが聞こえてくるようなそんな街です。是非参加してみて下さい。

国際交流委員 山田 雅明

## 平成12年度役員及び担当委員

会長	光藤 俊夫	理事(関東支部長)	奥村 一也	理事(関西支部)	刈谷 拓爾	海外交流(米国)	山田 雅明
顧問	清家 清	〃(関西支部長)	湯浅 権也	〃(関西支部)	西川日出世	海外交流(韓国)	長谷川和男
顧問	成瀬 嶺雄	〃(中部支部長)	内海 隆弘	〃(関西支部)	馬場 智士	名古屋展実行委員長	亀崎 敏郎
顧問	高須賀 晋	〃(九州支部長)	深沢栄太郎	〃(中部支部)	白川 雅之	東京展実行委員長	小川 弘
理事長	秋本 修時	〃(広報担当)	大久保 真	〃(中部支部)	知念 誠	大阪展実行委員長	湯浅 権也
理事(事務局長)	門脇 尚武	〃(作品展担当)	宮崎 岳彦	監事	中野 俊章	AD(アートディレクター)	畠中啓太郎
〃(会計)	大石 敏雄	〃(企画担当)	海法 一夫	監事	柿沼 迪夫	JARA21委員会	柿沼 迪夫

## 日本アーキテクチャーレンダラーズ協会 会員名簿

### ●関東支部

秋本修時 SHUJI AKIMOTO  
A・I・Fプロダクツ  
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-4-11 大興ビル4F  
TEL 03-3473-6661 FAX 03-3473-6662

秋山真樹 MAKI AKIYAMA  
フリーランス  
〒213-0005 川崎市高津区北見方1-3-9 第2藤井  
TEL 044-811-0861 FAX 044-811-0861

阿智邑隆 TAKASHI ACHIMURA  
株式会社 アトリエ・アチムラ  
〒112-0003 東京都文京区春日2-19-12-201  
TEL 03-5802-3190 FAX 03-5802-3192

阿部成男 SHIGEO ABE  
株式会社 ジェイアール東日本建築設計事務所  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-2-6 JR新宿ビル4F  
TEL 03-5371-3417 FAX 03-5371-3176

五十嵐茂樹 SHIGEKI IGARASHI  
株式会社 五十嵐工学パートナーズ事務所  
〒063-0832 札幌市西区発寒12条5-7-26  
TEL 011-662-5286 FAX 011-662-5286

猪口栄一 EIICHI IGUCHI  
A・デザイン  
〒273-0113 千葉県鎌ヶ谷市道野邊中央2-3-27  
TEL 0474-43-2518 FAX 0474-43-2587

生野正巳 MASAMI IKUNO  
株式会社アルモ設計 プレゼンテーション部  
〒107-8502 東京都港区赤坂5-30  
TEL 03-5561-2462 FAX 03-5574-8250

生松秀樹 HIDEKI OIMATSU  
デザイン・ドール研究室  
〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町5-9-16鶴川パークマンション301  
TEL 027-221-1722 FAX 027-223-5259

大石敏雄 TOSHIO OHISHI  
有限会社 敏デザイン事務所  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-9-4 MTアクアビル  
TEL 03-3983-6264 FAX 03-3985-6426

大久保眞 MAKOTO OHKUBO  
有限公司 アート・パレス  
〒330-0805 埼玉県大宮市南中丸606-7  
TEL 048-686-9062 FAX 048-688-4477

大熊功至 YOSHIIKU OHKUMA  
フリーランス  
〒330-0006 埼玉県大宮市島町460-5  
TEL 048-685-8082 FAX 048-685-8082

太田成子 SHIGEKO OHTA  
フリーランス  
〒233-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町2-16-20  
TEL 045-563-0351 FAX 045-563-0351

大野昉 HAJIME OHNO  
株式会社 オズ・アトリエ  
〒107-0062 東京都港区南青山2-22-4-406  
TEL 03-3408-4766 FAX 03-3408-4844

小川弘 HIROSHI OGAWA  
有限公司 アトリエ フォーユー  
〒153-0041 東京都目黒区駒場1-5-8  
TEL 03-3469-5968 FAX 03-3469-5961

奥村一也 KAZUYA OKUMURA  
有限公司 ヒューマン ファクター  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-23-10若松ビル2F  
TEL 03-3402-2683 FAX 03-3402-6629

落合高春 TAKAHARU OCHIAI  
落合レンダリング  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-39-2-404  
TEL 03-3478-3917 FAX 03-3478-4571

海法一夫 KAIHOH  
有限公司 海法デザイン事務所  
〒274-0063 千葉県船橋市習志野台8-22-1-304  
TEL 0474-67-6241 FAX 0474-67-6242

柿沼迪夫 MICHIO KAKINUMA  
柿沼建築設計事務所  
〒247-0064 神奈川県鎌倉市寺分2-30-10  
TEL 0467-45-1140 FAX 0467-45-1140

笠井紹美 SATOMI KASAI  
株式会社 北海道建設  
〒060-0031 北海道札幌市中央区北1条東2-5-2 札幌泉第1ビル5F  
TEL 011-241-9438 FAX 011-241-7598

加藤昭 AKIRA KATOH  
アトリエ・D・K  
〒183-0012 東京都府中市押立町5-13-147  
TEL 0424-85-4056 FAX 0424-86-5939

門脇尚武 NAOTAKE KADOKAWA  
有限公司 アレス  
〒272-0137 千葉県市川市福栄3-23-1-412  
TEL 047-390-2362 FAX 047-390-2363

門脇信夫 NOBUO KADOKAWA  
有限公司 カドワキ・ヴィジュアルコミュニケーション  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-23-10若松ビル2F  
TEL 03-3401-5877 FAX 0463-85-3019

金子修一 SHUICHI KANEKO  
有限公司 金子瓦プロック工業 パース部  
〒990-2492 山形県山形市鉄砲町1-13-11  
TEL 023-622-2334 FAX 023-622-2334

金伸之 NOBUYUKI KON  
株式会社 KON建築ART  
〒980-0824 仙台市青葉区支倉町3-30 グランセル支倉502  
TEL 022-222-1377 FAX 022-227-9086

品川信一 SHINICHI SHINAGAWA  
株式会社 久米設計  
〒135-8567 東京都江東区潮見2-1-22  
TEL 03-5632-7844 FAX 03-5632-7830

白井秀夫 HIDEO SHIRAI  
白井バースハウス  
〒351-0114 埼玉県和光市本町31-8-213  
TEL 0484-65-1615 FAX 0484-65-2593

砂山文則 FUMINORI SUNAYAMA  
有限公司 サン・レンダリング  
〒153-0061 東京都目黒区自黒1-1-50 TMフラッツ101  
TEL 03-3793-7391 FAX 03-3793-7393

諫訪利弘 TOSHIHIRO SUWA  
有限公司 諫訪デザイン  
〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町4-10-19  
TEL 027-223-3855 FAX 027-243-6543

瀬崎和長 KAZUNAGA SEZAKI  
エアスタジオ  
〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-716  
TEL 03-3654-2730 FAX 03-3654-2730

添田寿太郎 JUTAROU SOETA  
添田寿太郎透視画工房  
〒963-0111 福島県郡山市安積町荒井字鏡ヶ池7-5  
TEL 0249-45-9714 FAX 0249-45-9714

高井裕司 YUJI TAKAI  
高井デザイン工房  
〒124-0024 東京都葛飾区新小岩2-3-11-505  
TEL 03-5607-9620 FAX 03-5607-9630

高橋碧 AOI TAKAHASHI  
アオイ パースファクトリー  
〒181-0002 東京都三鷹市牟礼1-2-4  
TEL 0422-71-3949 FAX 0422-71-3949

高橋栄治 EIJI TAKAHASHI  
有限公司 イルーシブ  
〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町6-15-26-3-101  
TEL 03-3867-1642 FAX 03-3867-1542

田中啓子 KEIKO TANAKA  
有限公司 ワークショップあおやま  
〒158-0094 東京都世田谷区玉川13-1-107  
TEL 03-3707-2251 FAX 03-3707-6099

種橋重次 SHIGEJI TANEHASHI  
種橋建築設計事務所  
〒248-0033 神奈川県鎌倉市腰越3-32-27  
TEL 0467-32-2045 FAX 0467-32-2045

丹代真理子 MARIKO TANDAI  
丹代設計事務所  
〒082-0012 北海道河西郡芽室町東2条4-7  
TEL 0155-62-1781 FAX 0155-62-1781

丹野晶子 AKIKO TANNO  
アトリエ・タンノ  
〒162-0041 東京都新宿区早稻田鶴巣町566-403  
TEL 03-3207-1104 FAX 03-3207-1275

土屋輝男 TERUO TSUCHIYA  
株式会社 日建設計 東京本社 プレゼンテーション室  
〒112-8565 東京都文京区後楽2-1-3  
TEL 03-3813-3361 FAX 03-3817-0755

寺内英夫 HIDEO TERAUCHI  
株式会社アルモ設計  
〒107-8502 東京都港区赤坂6-5-30  
TEL 03-5561-2455 FAX 03-5574-8250

寺川昌子 MASAKO TERAKAWA  
バー・スタジオ・mono  
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷3-27-9  
TEL 03-3372-7220 FAX 03-3372-7230

照屋輝光 TERUMITU TERUYA  
株式会社シェイアール東日本建築設計事務所  
〒151-0053 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-2-6 JR新宿ビル  
TEL 03-3401-5877 FAX 0463-85-3019

提内康雄 YASUO DOTEUCHI  
有限公司 パース工房  
〒222-0002 横浜市港北区鈴岡町493-1 ベガサスマンション大倉山1-2  
TEL 045-972-2397 FAX 045-548-2318

長尾恵美子 EMIKO NAGAO  
バー・スタジオ  
〒270-0034 千葉県松戸市新松戸7-373-2  
TEL 047-345-0879 FAX 047-345-0879

中門静子 SHIZUKO NAKAKADO  
有限公司 デザイン・コンパス  
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町2-3-6-203  
TEL 0422-55-1145 FAX 0422-55-1146

中野俊章 TOSHIAKI NAKANO  
清水建設株式会社 設計本部プレゼンテーションセンター  
〒105-8007 東京都港区芝浦1-2-3シーパンス館  
TEL 03-5441-0299 FAX 03-5441-1410

中村勝彦 KATSUHIKO NAKAMURA  
プロト建築事務所  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13中林ビル401  
TEL 03-3811-9629 FAX 03-3818-5405

中村佳代 KAYO NAKAMURA  
kayoバースラーション  
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町1-1-5-201  
TEL 0422-22-9156 FAX 0422-22-9859

萩塚智子 TOMOKO HAGITSUKA  
有限公司 萩バースルーム  
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-14-6 伸和ビル201  
TEL 03-3468-1144 FAX 03-3468-4069

畠中啓太郎 KEITAROU HATANAKA  
アートボックス  
〒336-0026 浦和市辻3-1-21ハイラーツ浦和115  
TEL 048-865-1794 FAX 048-865-1794

水戸岡銳治 EIJI MITOOKA  
株式会社ドーン・デザイン研究所  
〒173-0026 東京都板橋区中丸町24-11 M-HOUSE201  
TEL 03-3955-2116 FAX 03-3955-2117

宮崎岳彦 TAKEHIKO MIYAZAKI  
アトリエ・アルム  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-13-9 アン・クロイワ501  
TEL 03-3375-2947 FAX 03-3379-9065

宮村幹子 MIKIKO MIYAMURA  
アトリエ ミヤムラ  
〒194-0011 東京都練馬区大泉学園町6-15-26-3-101  
TEL 042-799-6396 FAX 042-799-6398

村井謙介 KENSUKE MURAI  
謙スタジオ・デザイン事務所  
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-3-26第一タゴビル4F  
TEL 03-3350-0034 FAX 03-3350-6730

村崎茂 SHIGERU MURASAKI  
ムラサキバースドーリング  
〒272-0114 千葉県市川市塩焼2-2-1922  
TEL 047-396-7595 FAX 047-396-7595

森芳信 YOSHINOBU MORI  
株式会社日建設計 東京本社 プレゼンテーション室  
〒112-8565 東京都文京区後楽2-1-3  
TEL 03-3813-3361 FAX 03-3817-0755

森田憲広 NORIHIRO MORITA  
株式会社乃村藝社 MCカンバニーデザイン1部  
〒108-8565 東京都港区芝浦4-6-4  
TEL 03-5476-4808 FAX 03-5484-2561

安川昭二 SHOJI YASUKAWA  
ヤスカワ・レンダリング  
〒272-0127 千葉県市川市塩浜4-2-11-702  
TEL 047-390-1808 FAX 047-390-1809

柳田恵美子 EMIKO YANAGIDA  
有限公司 アトリエShe  
〒106-0032 東京都港区六本木4-2-20 藤和六本木コープ414  
TEL 03-3560-2061 FAX 03-3560-2061

山城義彦 YOSHIHIKO YAMASHIRO  
株式会社 山城デザイン  
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿2-3-15 エビスエイトビル  
TEL 03-3770-1501 FAX 03-3770-1507

山田和明 KAZUAKI YAMADA  
有限公司 アクアスタジオ  
〒225-0023 横浜市青葉区大場町911-8  
TEL 045-972-3800 FAX 045-972-3815

山田紀夫 NORIO YAMADA  
有限公司 ヤマダデザインインーム  
〒221-0834 横浜市神奈川区台町11-20 恒陽マンション902  
TEL 045-312-0961 FAX 045-312-4171

山田雅明 MASAAKI YAMADA  
株式会社 日建設計 東京本社 プレゼンテーション室  
〒112-8565 東京都文京区後楽2-3-1  
TEL 045-318-3361 FAX 03-3817-0755

山田律男 RITSUO YAMANAKA  
YPSヤマナカバーススタジオ  
〒151-0066 東京都渋谷区西原3-45-14 フラット代々木上原103  
TEL 03-3460-1852 FAX 03-3460-1852

山本靖則 YASUNORI YAMAMOTO  
ヤマ・デザインオフィス株式会社  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-6-4 金王高桑ビル1101  
TEL 03-3407-0465 FAX 03-3486-9504

米倉三貴 MIKI YONEKURA  
アトリエ・ライト  
〒156-0043 東京都世田谷区松原6-31-7 松原ハイデンス101  
TEL 03-3321-2424 FAX 03-3327-9308

山本隆弘 TAKAHIRO UTSUMI  
有限公司 クリエーションアート・ユウ  
〒468-0006 名古屋市天白区植田東3-514-2  
TEL 052-809-0144 FAX 052-8

宮本和朗 KAZURO MIYAMOTO  
株式会社デザイン事務所  
〒698-0041 島根県益田市高津町1592-101レグナビル203  
TEL 0856-24-2660 FAX 0856-23-0073

森 聖一 SEICHI MORIZ  
森聖一デザイン事務所  
〒560-0001 大阪府豊中市北緑丘3-1-10-202  
TEL 06-6854-4392 FAX 06-6854-4038

森山雅彦 MASAHIKO MORIYAMA  
Terra アート工房  
〒550-0012 大阪市西区阿波座1-12-16番地ビル  
TEL 06-6536-0291 FAX 06-6536-0923

湯浅禎也 YOSHIYA YUASA  
株式会社コラムデザインセンター  
〒542-0081 大阪市中央区南船場4-13-15  
TEL 06-6245-4631 FAX 06-6245-4654

吉田富士夫 FUJIO YOSHIDA  
バースプランニング  
〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光4-7-11 本多ビル301  
TEL 06-6327-4947 FAX 06-6327-4947

芳谷勝瀬 KATSUMI YOSHITANI  
株式会社 日建設 プレゼンテーション室  
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-2  
TEL 06-6203-2361 FAX 06-6203-4294

吉村勲 ISAO YOSHIMURA  
株式会社 建築バース アトリエノヴァ  
〒644-0003 和歌山県御坊市島62  
TEL 0738-23-5269 FAX 0738-24-0807

## 日本アーキテクチャーラーズ協会 準会員名簿

### ●関東支部

岩崎昇子 SHOKO IWASAKI  
フリーランス  
〒131-0045 東京都墨田区押上1-42-9  
TEL 03-3625-5827 FAX 03-3625-5827

小笠原茂 SHIGERU OGASAWARA  
From g  
〒131-0033 東京都文京区本郷2-13-13 本郷七番館601  
TEL 03-5803-1871 FAX 03-5803-1872

小沢香織 KAORI OZAWA  
From g  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-13-13 本郷七番館601  
TEL 03-5803-1871 FAX 03-5803-1872

煙山秀樹 HIDEKI KEMURIYAMA  
インテリアライフ101  
〒101-0048 東京都千代田区神田町2-17-4風間ビル  
TEL 03-3293-9249 FAX 03-3293-9249

中村元彦 MOTOHIKO NAKAMURA  
エムズレンダリング  
〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-31-10-104  
TEL 03-3997-1960 FAX 03-3997-1960

蓮見英樹 HIDEKI HASUMI  
創デザイン  
〒324-0001 栃木県大田原市乙連沢392  
TEL 0287-23-6306 FAX 0287-23-5543

望月洋子 YOUNO MOTIZUKI  
株式会社 海和建設  
〒231-0003 横浜市中区北仲通2-30 井上ビル4F  
TEL 045-201-2078 FAX 045-201-2079

### 編集後記

寄稿下さった皆様ありがとうございました。広告や協賛で御協力いただきました各社の皆様方に感謝申し上げます。  
当協会も20年間、多くの方々の情熱と努力で育まれてきました。不況を主な原因として会員が減少しておりますが、  
皆様の英知と情熱で30年、40年と歴史を重ねてゆきたいと思います。

T.K

渡辺廣史 KOJI WATANABE  
株式会社 竹中工務店 大阪本店設計本部 意匠課  
〒550-0005 大阪市西区西本町2-3-10  
TEL 06-6252-1201 FAX 06-6538-5480

### ●九州支部

今村幸生 YUKIO IMAMURA  
アンバースルーム  
〒862-0958 熊本市岡田町5-9  
TEL 096-373-0565 FAX 096-373-0566

加藤洋介 YOUSUKE KATO  
スタジオ アシスト  
〒862-0976 熊本県九品寺5-14-28  
TEL 096-212-1077 FAX 096-212-1078

古上博紀 HIROKI KOGAMI  
夢工房  
〒861-4172 熊本市御幸笛田5-11-20 アルフィスタ2F  
TEL 096-370-2680 FAX 096-370-2643

末川富久美 FUKUMI SUEKAWA  
フリーランス  
〒861-5347 熊本市河内町船津1231  
TEL 096-276-0688 FAX 096-276-0688

深沢栄太郎 EITARO FUKAZAWA  
P&L  
〒813-0011 福岡市東区香椎2-1-12  
TEL 092-671-4496 FAX 092-683-2010

本田雄二 YUUJI HONDA  
有限会社 エイ・アール工房  
〒861-4134 熊本市刈草町369-1  
TEL 096-211-7908 FAX 096-358-7015

松林洋一 YOICHI MATSUBAYASHI  
有限会社 ネギ・ブロ  
〒810-0011 福岡市中央区高砂1-21-26  
TEL 096-526-1771 FAX 092-526-1772

武藤奉文 TOMOYUKI MUTOU  
有限会社ドムス・ムトウ建築企画室バーススタジオ  
〒870-1135 大分県大分市大字羽屋21-1 チュリス古国府1-201  
TEL 097-546-3824 FAX 097-546-3823

安永憲之輔 KENNOSUKE YASUNAGA  
KEN DESIGN  
〒822-0144 福岡県鞍手郡若宮町稻光1122  
TEL 0949-55-6007 FAX 0949-55-6008

吉本和功 KAZUNORI YOSHIMOTO  
株式会社竹中工務店 九州支店 設計部  
〒810-0001 福岡市中央区天神4-2-20 天神幸ビル  
TEL 092-711-1211 FAX 092-781-5276

平成12年6月現在の正会員は128名

阪本一史 KAZUSHI SAKAMOTO  
デザインオフィス アングル  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町29-2-202  
TEL 06-6337-7591 FAX 06-6337-7660

徳見浩嗣 HIROTSUGU TOKUMI  
徳見建築デザイン  
〒569-0082 大阪府高槻市明野町12-2  
TEL 0726-74-6035 FAX 0726-74-8014

広畠直子 NAOKO HIROHATA  
ヒロデザイン事務所  
〒665-0883 宝塚市山本中3-17-2  
TEL 0797-88-7326 FAX 0797-88-7364

本田安紀子 AKIKO HONDA  
有限会社 トータルインテリアサービス  
〒536-0022 大阪市城東区永田3-12-25 中山ビル1F  
TEL 06-6961-3398 FAX 06-6963-2513

宮井将宏 MASAHIRO MIYAI  
フリーランス  
〒569-0814 大阪府高槻市富田町4-16-5 レオパレス富田第5-107  
TEL 0726-96-4586 FAX 0726-96-4586

### ●中部支部

小野木司 TSUKASA ONOGI  
建築造型  
〒501-1177 岐阜県岐阜市中西郷436-30  
TEL 0582-34-0554 FAX 0582-34-0554

佐々木祐子 YUKO SASAKI  
フリーランス  
〒505-0019 岐阜県美濃加茂市米田町為岡261-2  
TEL 0574-26-4566 FAX 0574-26-4566

古谷悦子 ETSUKO FURUTANI  
フリーランス  
〒521-0211 滋賀県坂田郡山東町桜河内342  
TEL 0749-57-0646 FAX 0749-57-0646

溝田剛士 TAKESHI MIZOTA  
トラスト  
〒464-0032 名古屋市千種区洞通5-3 TOP HILL IWATA 2F  
TEL 052-783-1667 FAX 052-783-1988

### ●関西支部

大歳由美 YUMI OOTOSHI  
プラン大歳  
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-16-22 牧野ビル406  
TEL 06-6448-3166 FAX 06-6448-3166

海部啓子 KEIKO KAIKU  
アトリエ セビア  
〒770-0816 徳島市助任本町2-42  
TEL 088-653-3602 FAX 088-626-3994

斎藤正 TADASHI SAITO  
SXL株式会社 設計管理団体  
〒530-0057 大阪市北区曾根崎2-11-16  
TEL 06-6315-7495 FAX 06-6315-5533

工士玲子 REIKO KUSHI  
コーム  
〒862-0934 熊本市八反田2-2-12  
TEL 096-380-1331 FAX 096-380-1331

渡辺博之 HIROYUKI WATANABE  
レンダリングスタジオアティック  
〒866-0072 熊本県八代市高下西町1032  
TEL 0965-34-9014 FAX 0965-34-9014

平成12年6月現在の準会員は21名

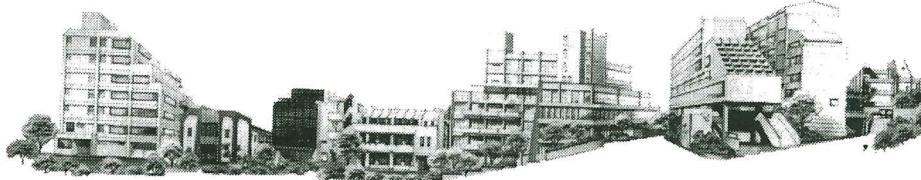
表紙作画者プロフィール  
押谷陽子 おしたにようこ  
1972年 大阪府生まれ (コメント)  
96年 奈良女子大学卒業 自然の風景が入った  
同年 (株)新井組入社 窓の箱を  
イメージしています。

育てたいのは  
実践力です。

### ●工業専門課程・昼間

建築工学科(3年)	建築設計科(2年)	建築設計科キャリアアップコース(2年)	女子建築設計科(2年)
建築設備工学科(3年)	建築設備設計科(2年)	インテリア工学科(3年)	建築室内設計科(2年)
工芸デザイン科(2年)	建築工学専攻科(1年)	建築土木工学科(3年)	土木工学科(3年)
造園土木工学科(3年)	下水道土木工学科(3年)	土木建設科(2年)	土木工学専攻科(1年)
建設情報専攻科(1年)	測量設計開発科(2年)	測量調査科(2年)	測量科(1年)
機械設計科(2年)	情報ネットワーク科(2年)	DTPデザイン科(2年)	CADエキスパート科(1年)

■夜間=昼間の各科に相応する7学科1専攻科設置



中央工学校校舎群

## 学校法人 専門学校 中央工学校

〒114-8543 東京都北区王子本町1-26-17 ☎03(3906)1211代 ☎0120-79-1511 http://www.chuoko.ac.jp

## 世界の一流品がそろう店 画材・額縁 デザイン材料



カワチホームページ  
[Web](http://www.kawachigazai.co.jp) http://www.kawachigazai.co.jp  
インターネットでご注文いただけます。



■心斎橋本店 大阪市中央区心斎橋筋1-8-1 TEL(06)6252-5800  
■なんばCITY店 大阪市中央区難波5-1-60 ナンバCITY南館2F TEL(06)6644-2832  
■江坂店 吹田市豊津町9-40 江坂東急ビル1F TEL(06)6330-6758  
■守口店 守口市河原町8-3 京阪百貨店守口店6F TEL(06)6994-0351  
■あべの店 大阪市阿倍野区阿倍野筋3-10-1 SOGO HOP 1F TEL(06)6649-7496  
■営業部 大阪市西区新町1-11-8 TEL(06)6532-4588